

第一印象は、はにかむ笑顔がかわいらしいごく普通の女子高生。しかし、練習に入ったとたんその印象が変わる。表情が引き締まり弓道場内に心地よい緊張感が漂う。凜とした佇まいにこちらの身も引き締まる。彼女が8月に開催される国体に出場するアスリートであると同時に武芸の達人であることを実感した瞬間である。



入部後の彼女は順調に成長していく。迎えた今年7月、久留米で行われた令和4年度国体福岡県代表選考会に入賞。その後入賞者6人から4人に絞られる最終選考でも勝ち残り、見事福岡県代表の座を勝ち取った。福岡県の高女子弓道競技者数は約1800人と、そこから約450倍もの競争率を勝ち抜いたことになる。

狭き門をくぐり抜け、見事国体出場を果たした今川さんに弓道で成果を出せた理由を聞いたところ「がむしゃらにやるのではなく、スポーツ科学を取り入れています」と言う。上手くいかない時は原因を分析し、指をこうひねればこう軌道が変わるはず、という具合に仮説を立てて試行錯誤を繰り返してきた。理論派の今川さんの好きな教科は数学。理由は、解けたときの達成感が大きいから。数学と弓道は似ていると言う。弓道では、手持ちの矢が4本しかないため一矢ごとに最適解を選ぶ必要がある。その思考法が、論理的に解いていく数学に通ずるのだ。



→弓道の達人の今川さんだが、普段はごく普通の女子高生。彼女がこうみえて天然で「一番ノリがいいんです」とは弓道部の友人水津亜優さんの証言。

彼女の強みを顧問の村井先生に聞いてみると、統率力があり、人から慕われる彼女の人柄にあると言う。村井先生によると、弓道は生活態度が成績に反映するのだそう。なぜか小さい頃から人の中心にいた。上野小学校では児童会長、赤池中学校ではバスケット部のキャプテンと生徒会長だった。鞍手高校では弓道部の男女含めた総部長と、体育祭のマスのゲームのブロッカーを努める生粋のリーダーで

ある。弓道部の友人も「皆のために率先して自己犠牲を払える人」頼れる存在」と異口同音に言う。取材で接していても、こちらの質問の意図を汲もうとする姿勢と的確な受け答えに、彼女の誠実で聡明な人柄が伝わってきた。

弓道部に入って良かったことは、たくさんいる先輩や後輩、仲間ができたことだと言う。そんな彼女が国体に出る。今度はみんなが彼女をへ

✓助ける番だ。がんばれくるみ、負けるなくるみ、私たちが付いているー迎えた8月20日、火の国熊本での九州ブロック国体初日。九州8県中、上位3県が9月の栃木国体に進むことになる。近似的を狙う「近筋」で2位の好位置に付ける。しかし、翌日の21日、遠的を狙う「遠的」で5位。総合順位4位となり、惜しくも栃木行きはならなかった。しかし、強豪としてのぎを削り、あと二歩まで迫った。大学でも弓道が続けたいと言う今川さん。彼女の弓「道」はまだまた続く。



「弓入魂」 Kurumi Imagawa 今川くるみ

平成16年生まれ18歳。鞍手高校入学と同時に弓道始める。令和4年度国体弓道少年女子部福岡県代表。